

千葉銀行 様

目的

営業強化・
事務効率化

従業員数

1,001名以上

業種

金融・保険

エリア

関東甲信越



最新のタブレットを導入 独自開発アプリを活用し 営業力と業務効率を向上

「お客さま第一主義」を掲げ、千葉県を中心に展開する千葉銀行。タブレットを早くから導入し、営業推進および業務効率化に役立ててきた。今年、Windowsタブレットを約600台追加導入し、独自開発アプリの「ひまわりナビ」や「投資信託約定システム」を組み合わせて活用することで、さらなる機能強化を実現する。

Windowsタブレットを導入

導入前の課題

1

銀行内システムとの親和性や、拡張性を考慮すると、タブレット導入当初は存在しなかったWindowsタブレットの導入は不可欠

2

投資信託の営業現場でタブレットを早くから導入してきたが、行員のスキルやキャリアによって販売実績に差があった

3

投資信託の販売や約定、その手続きを行内で処理する際、申請や確認書類が多く事務処理が煩雑

導入後の成果

1

新たに導入したWindowsタブレットを活用し、**営業力の強化と業務効率化を一層推進**

2

独自開発の「ひまわりナビ」などをWindowsタブレットで有効活用し、**経験の浅い行員でもその場で顧客ニーズに即した提案が可能に**

3

独自開発の「投資信託約定システム」と「書類撮影アプリ」を活用し、書類の**ペーパーレス化を進めて事務効率が大幅に向上**

「独自開発アプリ・システムを活用して営業力を強化」

当行はICTを強力に推進し、営業推進や業務効率化を目的にタブレットを活用しています。2012年に導入以来、保有数は約1,200台まで増えました。今年ドコモからの提案と行内システムとの高い親和性から約600台をWindowsタブレットに切替えました。タブレットの活用を最も進めているのが投資信託の販売です。当行では、さまざまなマーケット情報や投資信託を案内できる「ひまわりナビ」や、投資信託の注文から約定までできる「投資信託約定システム」を搭載したタブレットを行員が持って、お客さまのご自宅におかがいして投資信

託を案内しています。タブレットのよい点は、画面が大きいのでお客さまと情報が共有しやすく、対話もスムーズになることです。タブレットの導入以後、お客さまの真の資産運用ニーズに応えるとともに、お客さまが書類に記入する負担を削減し、販売の時間を大幅に削減することができました。

Company Information

千葉県を主な営業基盤とする地方銀行。次世代の金融サービスや新たな価値を創造する「リテール・ベストバンク」をめざす。タブレットを早くに導入し営業力強化や業務効率化を推進。今後ワークスタイルの改革もめざす。



経営企画部
フィンテック事業化推進室
直井 弘洋 氏



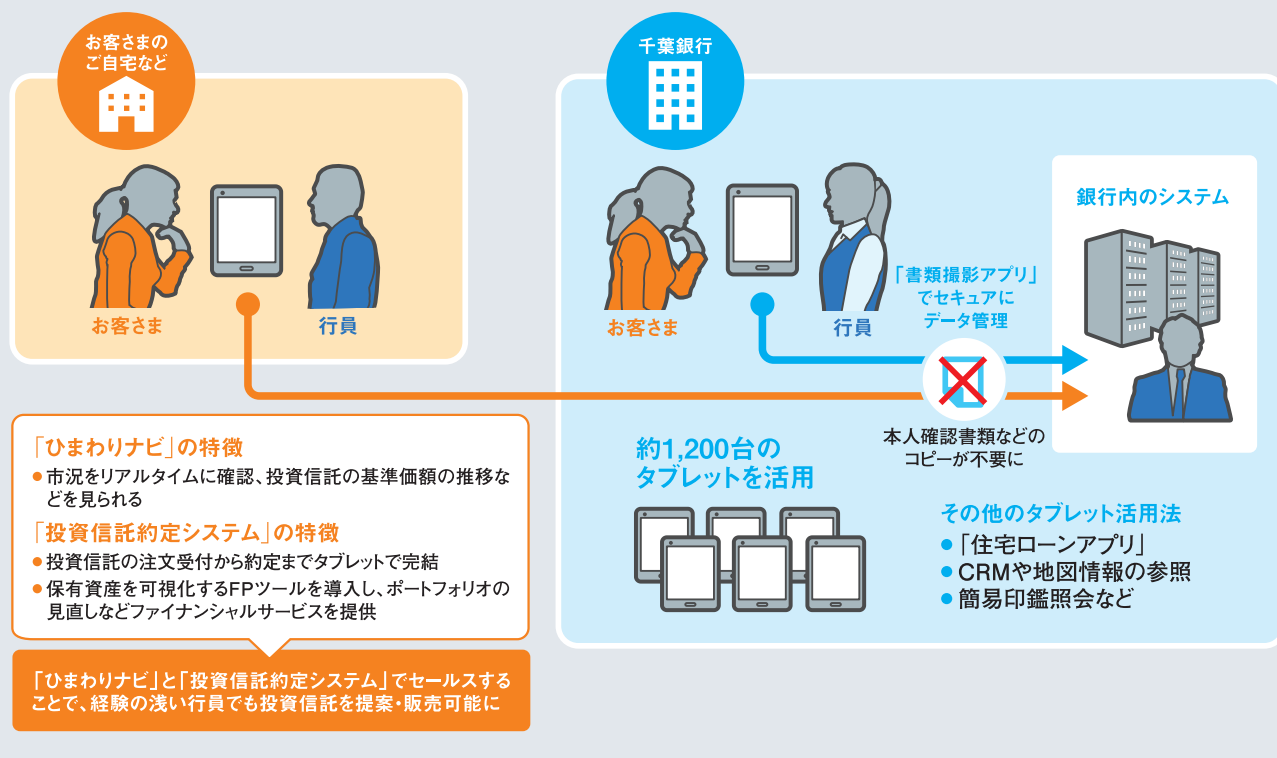
資産運用サポート部
田村 康浩 氏

「タブレットを活用してテレワーク環境の構築をめざす」

タブレットを導入した当初の目的は営業推進でしたが、現在では業務の効率化にも欠かせません。独自開発した「投資信託約定システム」や「書類撮影アプリ」はお客様の利便性向上のみならず、行内業務の効率化にも大いに役立っています。当行にとってタブレットはなくてはならないインフラの一つです。今後はデスクトップパソコンなどとの統合も進めて、行内や行外を問わず、タブレットがあればどこでも仕事ができるテレワーク環境の構築をめざしたいですね。



導入システムの概略図



■ 営業担当者からのメッセージ



ドコモCS 千葉支店 法人営業部 第一法人営業担当 **本多 孝之**

お客様の既存システムを有効活用できるWindowsOSを採用いただきました。セキュリティ関連のさまざまな課題に対して、お客様とともに解決し導入に至りました。今後もいつでも頼れる「最寄りのドコモ」として、お客様の業務を支援・サポートしてまいります。

お問い合わせ



ビジどこ タブレット向け電子コンテンツアプリ



「ビジどこ」は、あなたの仕事をもっとスマートになるビジネス情報を発信するアプリです。動画など、アプリならではの機能を活かした多彩なビジュアル表現でお届けします。

ドコモの法人向けサイト

docomo Business Online

ドコモビジネスオンライン

検索

パソコン/スマホから

<http://www.docomo.biz/>

